年度初めのごあいさつ

日本アイ・ビー・エム健康保険組合
理事長　藤倉　貴克

被保険者ならびにご家族のみなさま、また、事業主様には、日本アイ・ビー・エム健康保険組合の事業運営につきまして日頃より多大なるご理解・ご協力を賜り、心より御礼を申し上げます。2015年度を振り返ってみますと、やはり第一にイギリスで開催された「ラグビーワールドカップ2015」における日本代表チームの素晴らしい活躍が思い起こされます。日本代表としての誇りを持ち、ひたむきに楕円のボールを追い、名だたるラグビー強豪国に臆することなく立ち向かった彼らの戦い方に、感動をされた方々も多かったのではないでしょうか。

当健保組合では、2015年度は健診をはじめとする疾病予防プログラムを中心とした事業運営を実施していくことを骨子として、新たにスタートした「データヘルス計画」にて、当健保組合の健康課題を明確にしつつ、その対策を盛り込んだ事業内容を展開してまいりました。この当健保組合の取り組み内容に関しましては、本誌「Zoom Up」欄にてシリーズとして連載させていただいております。また、被保険者の方々のみならず、ご家族のみなさまご自身にも健康状態のチェックをよりスムーズに行っていただくためのシステム開発施策として、昨年5月に「すこやかサポートPlus」（略称：SSP）との名称で、当健保組合独自の健康ポータルサイトを新規に立ち上げました。今後も健診結果のみならず、魅力ある健康情報を当SSPより発信していき、みなさまの健康維持・増進に活用していただけるよう工夫を図ってまいりたいと考えております。

さて、当健保組合を含めた健康保険組合全体を取り巻く環境は、高齢化の進展、医療費の増大、関係制度の改編によって、年々その厳しさを増しています。その要因は、すでにさまざまな方面から明示されているとおり、高齢者医療制度への過重な費用負担にあります。加えて、団塊世代の前期高齢者への移行に伴う高齢者医療費の増加や、後期高齢者支援金の総報酬割の拡大実施等による、さらなる財政状況悪化が懸念される状況となっております。昨年11月25日に開催された「健康保険組合全国大会」では、これらの状況を踏まえ「現役世代が納得できる公平な制度の実現へ」とのスローガンのもと、「高齢者医療費の負担構造改革の実現」「安定した組合運営に向けた財政支援の継続・拡充」「実効ある医療費適正化対策の実施」「保険者機能の発揮に効果的な健保組合方式の維持・発展」という4つの決議が採択されました。加えて、経済界のみならず、自治体、学会あるいは健保組合等の保険者が厳しい財政状況のなかで一丸となって我が国の健康寿命の延伸のために取り組む組織として「日本健康会議」も発足いたしました。

これらの状況から当健保組合としても、2015年度同様に限られた原資をより有効に活用していくために、健診をはじめとする疾病予防プログラムを中心としたより実効性のある保健事業を進めていくことこそが、政官民一体となって国民皆保険制度の維持活動に寄与し、ひいてはみなさまのすこやかな健康生活を支援することにつながるものと考えております。引き続き当健保組合の事業展開をご支援くださいますよう、よろしくお願いいたします。

最後になりましたが、本年がみなさまにとって幸多き一年となりますようお祈り申し上げ、年頭のごあいさつとさせていただきます。